

日本母性看護学会ニュースレター

The Japan Academy of Maternity Nursing Newsletter No.9

発行 日本母性看護学会 事務局:〒228-0829 神奈川県相模原市北里 2-1-1 北里大学看護学部内 Tel. 042-778-9826 Fax. 042-778-9826

新理事長挨拶

高橋真理



平成 19 年 6 月、初代理事長前原澄子先生の後任として、日本母性看護学会の理事長に就任いたしました高橋真理です。これまで会員の皆様にはご挨拶が遅れましたことをお詫び申し上げます。

女性・母子・家族の健やかな一生を支えるケアの探求に向け、新しい世紀の展望を背景に 20 世紀末にスタートした本学会も、来年は発足 10 年の節目の年であり、21 世紀の新たな局面を迎えようとしています。この 10 年の学会を取り巻く状況は、大学の教育改革に加え、日本学術会議のあり方など、大きな変革が進んでおります。また、少子・長寿高齢社会を迎え、出産を取り巻く医療現況や女性の生涯の健康問題など、現在、わが国の母性看護や女性の健康に対する課題は山積みであり、本学会の重要性は益々大きくなると思われまます。このような状況の中で、日本母性看護学会が、母性看護学の基礎研究を深め、エビデンスに基づく実践研究を積み重ね、女性・母子・家族の生涯の健康を支援していくには、ますますの絶えざる努力が必要であり、理事長としての学会の責任の重さを痛感しております。

わが国における今、そしてこれからの本学会の役割や課題は多岐に渡りますが、今期理事会では、

森恵美副理事長や理事の方々とともに、本学会の近未来にむけたアカデミックロードマップを描き、重要性と緊急度を考慮しながら優先順位を明確にし、一つ一つ堅実に歩みを進めたいと考えます。なお、具体的な方針や企画につきましては、今後ホームページ、ニュースレターや学会を通して、会員の皆様方にはお知らせする予定です。また、あわせて情報化時代にふさわしい、会員相互の情報交換を図りたいと思います。

どうか、会員の皆様には、本学会の更なる発展のために、忌憚ないご意見をお聞かせ下さい。また、温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

以上、簡単ですが、理事長就任のご挨拶とさせていただきます。

学術会議看護分科会への提案書 提出の経緯について

日本における医療格差は拡大しており、解決に向けた対応が急務とされております。

医師側からは、既に日本学術会議を介し、現状打開に向けた報告書が出されておりますが看護側からの報告書は提示されておられません。日本学術会議（会員：南裕子先生）看護分科会は、日本看護系大学協議会に参加している看護学会（33 学会）に対し、看護の役割拡大を含めた具体策の検討を要望いたしました。

当会は、この要望を受け、同封しました「日本学術会議看護分科会 医療格差への対応に関する提言」にありますように提案書を提出いたしました。

（総務担当：島袋）

第9回日本母性看護学会学術集会は、平成19年6月16日(土)に東京女子医科大学弥生記念講堂等(新宿区)にて開催し、多くの皆様のご協力とご支援により盛会に終了いたしました。学会のテーマは、「先端医療とウーマンズヘルス」とし、理事長講演・会長講演・特別講演、シンポジウム、一般演題発表に全国から約300名のご参加がありました。

冒頭の原澄子理事長(京都橘大学看護学部長)講演では、「先端医療とウーマンズヘルス」をテーマに、周産期医療の目覚ましい発展と共に、本来は自然に経過すべきである出産への医療介入に対して女性たちの批判が高まっている現状をふまえつつ、母性看護学会のあらたな役割を提言されるご講演でした。

会長講演では、「先端生命看護と21世紀からのウーマンズヘルス」をテーマに、東京女子医科大学大学院における先端生命医療研究グループの活動を踏まえながら、看護学が先端生命医科学および先端工学と学際的に協同して融合を進めながら、ハイレベルでかつハイクオリティな治療と看護ケアを提供することを表現した概念モデルの紹介と、先端生命医療を担う看護専門職者育成のための大学院博士課程におけるカリキュラム構築案を提示し、今後のウーマンズヘルスのあり方について提言しました。

特別講演の太田博明氏(東京女子医科大学産婦人科学教室主任教授)の講演では「女性のライフイベントとウーマンズヘルス」をテーマに、産婦人科更年期専門外来の実践から得た、閉経によるエストロゲン欠乏に起因する高脂血症化や骨密度低下のデータを基に、女性の健康長寿を損なうライフイベントを阻止するために骨と血管系の健康を守るウーマンズヘルスの意義をわかりやすい資料提示とともになごやかな雰囲気の中で話をされ、会場からは大きな拍手がわきあがりました。

特別講演の伊関洋氏(東京女子医科大学生命医科学研究科教授)の講演では、「先端生命医療」をテーマに、21世紀の医療は安全性と確実性、治療の質を優先し、リスクを管理すると同時に、リスクを評価

しながら実行する先行予測制御型医療の話題を中心に、最新の先端医療の画像を豊富に交えながらのご講演であり、会場からは感嘆と共に未来に向かっての看護を個々に模索する熱気が会場内にあふれていました。

午後からは、「21世紀からのウーマンズヘルスへの提言」をテーマに、刀根洋子氏(目白大学看護学部教授)、村本淳子氏(三重県立看護大学看護学部教授)を座長に5人の演者によるシンポジウムが行われました。斎藤加代子氏(東京女子医科大学附属遺伝子医療センター所長 教授)による「遺伝子治療を遺伝カウンセリング」では、臨床遺伝学の専門的知識・経験をもち、習熟した臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーなどにより遺伝カウンセリングは行われているが、今後、遺伝看護師、ソーシャルワーカー等と協力して、チーム医療として実施することが望まれていることの報告がなされた。川嶋朗氏(東京女子医科大学附属青山女性・自然医療研究所 自然医療部門所長 准教授)による「自然医療によるウーマンズヘルスと看護への期待」では、育児や介護等の家庭における多くの問題を担っている女性にこそ心や身体の不調で医療機関を受診するような場合は自然医療の適応が多いと話され、ウーマンズヘルスにおける自然医療的アプローチと看護の重要性について提言がなされました。かづきれいこ氏(有限会社かづきれいこ代表取締役 フェシカルセラピスト)による「本当のきれいとは」では、リハビリメイクは従来のカバーリングメイクとは異なり、患者が満足しうる美ともたらし社会復帰を促すことに目的があるとし、医療従事者との連携をとりながらQOLを高めることを目指している報告がなされた。高橋真理氏(北里大学看護学部長)による「Women's Health と看護」では、わが国のWomen's Health と看護に求められる4つの視点(EBPに基づく研究、包括的な取り組みとしてのHealth Promotionの展開、Women's Health と政策、Women's Health と教育)について提言された。加茂登志子氏(東京女子医科大

学附属女性生涯健康センター所長 教授)による「女性生涯医療」では、女性生涯健康センター開設 10 年間で蓄積された知見から、疾病への対応だけに限定されない、疾病予防、ひいては健康増進までの過程が一つの連続体をなす女性生涯医療について提言がなされました。

発表後、各シンポジストに対する会場からの活発な質疑がなされ、その中から今後の展望がまとめられました。

また、一般演題では、口頭部門では「妊娠期」「分娩期・その他」「産褥期」「育児・その他」「新生児

期」「ウーマンズヘルス」の 6 群 23 演題、示説部門では 1 群 10 演題の合計 33 演題を 4 会場に分かれて進行し、日頃の研究成果について発表者と参加者との熱心な意見交換が行われました。

さらに、これらの一般演題発表後に行われた中尾節子氏(中尾気功教室)による中国気功では多くの参加者が気功を体験をされ、満足した様子でした。そして、最後の懇親会(於:京王プラザホテル)においては、講演者やシンポジストの先生方も多数参加され、四重奏の音色を聴きながら会員の皆様と優雅な一時を過ごすことができました。



シンポジウムの様子



一般演題発表の様子

第 1 回 日本母性看護学会学術論文賞決まる！！

第 1 回の日本母性看護学会学術論文賞の授賞式が、去る 2007 年 6 月 16 日第 9 回日本母性看護学会学術集会総会の会場で行われました。栄えある第 1 回の学術論文賞を受賞した論文は、原著「青年期の母性を育てる乳幼児とのふれあい体験に関する実証的研究-心理・生理・内分泌学的指標による評価」日本母性看護学会誌 Vol7.(1)に掲載された論文で、著者は佐々木綾子氏、中井昭夫氏、波崎由美子氏、松本健一氏、田邊美智子氏の共同執筆です。代表として筆頭者の佐々木綾子氏(福井大学)に賞状および副賞が理事長(1999.6~2007.6)前原澄子より授与されました。

次頁の規定・細則に従い受賞論文を決定しております。第 1 回は日本母性看護学会誌 Vol.6(1),2006.および Vol.7(1),2007 の原著および研究報告、総説 10 編の中から厳正な審査の結果、選出されました。日本母性看護学会誌は質の高い論文が多数掲載されており、母性看護学の研究分野をリードしている論文ですので、インパクトファクターもあがり、今後ますます重要視されていくものと考えます。

第 2 回の日本母性看護学会学術論文賞は、日本母性看護学会誌 Vol.7(1)および Vol.8(1),2008 年 3 月発刊の論文の中から、審査を経て決定する予定です。この学術論文賞の発表及び授与式は平成 20 年 6 月に行われます第 10 回日本母性看護学会学術集会総会で行われます。(文責 総務理事 吉沢)

日本母性看護学会学術論文賞に関する規定および細則

日本母性看護学会学術論文賞に関する規定

(趣旨)

第1条 この規定は、母性看護学の発展に寄与する学術研究活動推進のために、会員の優れた研究論文を表彰することに関し必要な事項を定める

(種類)

第2条 次の賞を設け表彰する
日本母性看護学会学術論文賞(以下学術論文賞)

(審査対象)

第3条 審査の対象は次のとおりとする
次の条件を満たす論文

- (1) 当該年および当該前年の2年間に本学会誌に原著として掲載された論文
- (2) 当該年および当該前年の2年間に本学会誌に総説または研究報告として掲載された論文

(受賞者数)

第4条 受賞者数は毎年度1名以内とする

(選考)

第5条 理事が予め推薦した論文について、理事長が委嘱した委員によって構成された選考委員会で審査し選考する

(決定)

第6条 決定は次のとおりである
前条により選出された候補論文については、理事会の議を経て授賞論文を決定し、毎年度の総会前に著者に通知する

(表彰等)

第7条 学術論文賞授賞論文には、賞状および副賞を毎年総会時に授与する。

附則

施行期日

この規定は、平成 19年3月15日から施行する

日本母性看護学会学術論文賞に関する規定細則

趣旨

第1条 この細則は、日本母性看護学会学術論文賞に関する規定において、学術論文賞の候補論文選定に関する必要な事項について定める

選考基準

第2条 学術論文の選考は、次のとおりとする
次の条件をみたすもの

- 1) 学術論文の内容が、母性看護学の発展に有益で顕著な論文であると認められる
- 2) 研究方法や成果に独創性があり、母性看護実践への示唆が大きいこと

選考時期・手順

第3条 選考時期・手順は次のとおりとする

(選考手順)

- 1) 当該年度学会誌の発行後3週間以内に理事は、当該前年度学会誌と合わせて優秀論文3編以内を選考委員会に推薦する
- 2) 選考委員会はこれを受け、順位付けをし、上位3編にコメントをつけ理事会に提出する
- 3) 理事会はこれを受け、毎年1論文以内の授賞論文を当該年度の総会までに決定する

(選考委員会)

- 1) 選考委員会委員は理事長から委嘱された理事4名で構成し、任期は1年とする
- 2) 選考委員会は4月に設置する
- 3) 選考委員会委員長は選考委員の互選により決定する

その他

第4条 副賞の内容については、当該年度の理事会で決定する

第5条 学術論文賞に関しての事務手続き、総括は当分の間総務が担当する

(規定の改正)

第6条 本規定の改正は、理事会の議を経て行う

附則

施行期日

この規定は、平成 19年 3月 15日から施行する

第10回日本母性看護学会学術集会のご案内

学術集会長：大阪府立大学 末原紀美代
開催日：平成20年6月21日～22日
場所：大阪大学中之島センター

日本母性看護学会会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、第10回日本母性看護学会学術集会を担当させていただくことになりました。誠に光栄に存じております。

第10回という一つの節目にあたる学術集会のテーマを「つながりの輪と絆の中で生命を迎え育むために」を掲げさせていただき、皆様方のご期待に応えるべく誠心誠意準備を進めております。

第1日目6月21日(土)は、記念すべき10周年記念式典と理事長講演「日本母性看護学会の来し方と行く末」高橋真理先生(北里大学 看護学部教授)、学術集会長講演「つながりと絆を求めた40年」末原紀美代(大阪府立大学 看護学部教授)、10周年記念講演「つながりあって働く人たち」

東野洋子先生(楽団あぶあぶあ&ミュージカルチーム LOVE 主宰：ホームページ

<http://www.abuabua.net/>)、シンポジウム1「母性看護専門看護師実践報告」、一般演題(口演・示説)、ビデオ映写セッション、ランチョンセミナー「女性のQOLを向上させる薬剤をうまく使いませんか?」が予定されています。終了後、懇親会を開催致します。

第2日目の6月22日(日)は、特別講演「家庭・学校・地域をとりまくことば - よりよき社会を目指して - 」山本麻子先生(英国 Reading 大学 言語学者、著書『ことばを鍛えるイギリスの学校』、『ことばを使いこなすイギリスの社会』(岩波書

店)他多数)、教育講演「生殖補助医療における倫理」森岡正博先生(大阪府立大学 人間社会学部教授 <http://www.lifestudies.org/jp/>)、シンポジウム2「育児を科学する」、一般演題(口演・示説)・ビデオ映写セッション、ランチョンセミナー「女性の日常を快適にするための商品開発への取組み」が予定されています。総会においては、優秀論文賞の授与と発表を行いません。

学会を開催する大阪中之島界限はなにわの文化の中心地でもあり、懐かしい名所旧跡をはじめ国立国際美術館、大阪市東洋美術館、国立文楽劇場、シンフォニーホール、劇団四季劇場、繁盛亭などが近接しています。大阪での学会の折に「忙中閑」のひと時はいかがでしょうか。学会の参加を機に、よりつながりを発展させていただき、皆様方との絆を深め、生命を慈しむ看護の糧にさせていただければ幸いです。

皆様方のご参加を心からお待ち申しあげております。

(ポスター画は東野洋子先生のご好意によりました)



事務局だより

1. 事務局の移転について

事務局が移転いたしました。連絡先にご注意下さい。

〒228-0829 神奈川県相模原市北里 2-1-1

北里大学看護学部内

TEL/FAX : 042-778-9826

Eメール : jsmn@nrs.kitasato-u.ac.jp

2. 第9回日本母性看護学会学術集会開催について

平成19年6月16日(土)久米美代子会長(東京女子医科大学)のもと、第9回日本母性看護学会学術集会が開催されました。メインテーマ「先端医療とウーマンズヘルス」を掲げ、特別講演・シンポジウムではウーマンズヘルスの現在と課題を見つめ、今後について提案がなされました。また、一般演題は周産期・育児期に関するものが多数ではありましたが、助産師教育・思春期・更年期と幅広く参加者の意見交換が行われました。懇親会は、都内の夜景をバックに室内管弦楽を楽しみながらの交流会となりました。

3. 会員管理システム導入について

本年度よりインターネットによる会員管理システムを導入いたしました。会員の皆様には、すでに、新会員番号(ID)とパスワード及び会員ページへのログインに関するご案内をさせて頂いております(2007年5月16日付)。日本母性看護学会HPの<会員・入会手続き・年会費>ページより会員管理システムへのログインをクリックし、会員IDとパスワードを入力すると会員様個人の登録情報が案内されます。メールアドレスをご登録頂きますと、HP更新のお知らせにより学会情報など、いち早くお知らせすることができます。

注：学会HP上にメールアドレスが登録されていない会員につきましては、入会登録の確認のため学会アドレスが仮入力されています。HP上の会員管理システムにログインして、ご自分のメールアドレスへの変更をお願いいたします。

また、学会誌などの送付先住所など、登録内容に変更のある方は、登録内容を確認・変更くださるようお願いいたします。

インターネットへのアクセスができない方は、事務局までご連絡ください。

4. 平成19年度会費の支払いについて

当学会は、皆様の会費で運営されております。平成19年度会費未納の方は、郵便振込み(青色の払込取扱票)による会費の納入(¥8,000)をお願いいたします。

口座番号:00890-3 128235

加入者名:日本母性看護学会

*通信欄に平成19年度年会費と記載をお願いいたします。

なお、入金状況がご不明な方は、学会HPの<会員・入会手続き・年会費>ページより会員管理システムへのログインをクリックし、会員IDとパスワードを入力しご確認下さい。また、今年より、会員管理システムを利用したクレジット支払いも可能です。クレジット支払いをご希望の方は、会員管理システムにアクセスを行い、年会費支払い方法をご変更ください。変更後にクレジット番号等必要事項をご入力いただくことで支払いが完了します。後日、クレジット会社から請求が行きますが、請求者は学会名ではなく「学会屋.com(コム)」となっておりますのでご注意ください。なお、2月から3月までは会計運営上クレジット支払いができませんのでご了承下さい。

発行人：高橋真理
発行日：2007年12月4日
編集担当者：成田 伸、村本淳子、西岡啓子
発行所：日本母性看護学会
〒228-0829 神奈川県相模原市北里 2-1-1
北里大学看護学部内
Tel/Fax : 042-778-9826
Eメール : jsmn@nrs.kitasato-u.ac.jp